

平成 27 年度事業計画

(平成 27 年 4 月 1 日－平成 28 年 3 月 31 日)

I. 定期学術集会・総会の開催

第 62 回日本実験動物学会総会を下記のとおり開催する。

会 期 : 平成 27 年 5 月 28 日 (木) ～30 日 (土)
会 場 : 京都テルサ (京都府民総合交流プラザ)
会 長 : 喜多 正和 (京都府立医科大学大学院医学研究科)
参加者 : 約 1,000 名を予定

II. 通常総会、理事会、理事評議員懇談会の開催

通常総会 (1 回)、理事会 (3 回)、理事評議員懇談会 (1 回) を開催する。

III. 定期刊行物の発行

機関誌「Experimental Animals」および「実験動物ニュース」を下記のとおり発行し、
会員に希望配布する。

発行年月日	巻	号	備考
平成 27 年 4 月 1 日	64	2	
平成 27 年 5 月 1 日	64	サブプレメント号 (電子配信)	
平成 27 年 7 月 1 日	64	3	
平成 27 年 10 月 1 日	64	4	
平成 28 年 1 月 1 日	65	1	

IV. 研究の奨励、業績の表彰

(1) 第 27 回学会賞受賞者を表彰する。

1) 功労賞 (1 名)

関口 富士男 会員 (ハムリー株式会社)

2) 安東・田嶋賞 (1 名)

伊藤 守 会員 ((公財) 実験動物中央研究所)

「ヒト化マウス創出をめざした免疫不全マウスの開発研究」

3) 奨励賞 (2 名、五十音順)

香月 康宏 会員 (鳥取大学大学院医学研究科機能再生医科学専攻生体機能医工学講座)

「染色体工学技術を用いた新規トランスクロモソミック動物作製システムの開発」

吉見 一人 会員（京都大学大学院医学研究科附属動物実験施設）

「ゲノム編集技術を用いた遺伝子改変ラットの開発研究」

4) 2014 年 Experimental Animals 最優秀論文賞（1 編）

秋津 葵、角田 茂、西条 忍、岩倉洋一郎

Rag2-deficient IL-1 receptor antagonist-deficient mice are novel colitis model in which innate lymphoid cell-derived IL-17 is involved in the pathogenesis

「新規大腸炎モデルである *Rag2^{-/-}Il1rn^{-/-}*マウスにおいては ILC3 細胞由来 IL-17A が病態形成に重要な役割を果たしている」

(2) 2014 年日本実験動物学会国際賞の表彰を行う。

2014 年受賞者（8 名）

中国 : Zhenkun Li

台湾 : Tsai-Jung Lin

インドネシア : Silvia Arin Prabandari

韓国 : Jin-Hee Seo

マレーシア : Hasliza Abu Hassim

フィリピン : Mikaela Angelica Villablanca

シンガポール : Jassia Pang

タイ : Kasem Rattanapinyopituk

(3) 第 28 回日本実験動物学会功労賞、安東・田嶋賞ならびに奨励賞の推薦受付、選考を行う。

(4) 2015 年 Experimental Animals 最優秀論文賞の選考を行う。

(5) 2015 年日本実験動物学会国際賞の選考を行う。

(6) 第 65 回日本実験動物学会総会大会長を選出する。

V. 役員（平成 28～29 年度在任）の改選にかかわる諸事業

(1) 会員名簿を作成する。

(2) 理事候補者を選出する。

VI. 特定資産の積立

天災等の危機管理対策のために特定資産積立を行う。当該特定資産は仮称公益目的事業基金（運用益を公益目的事業の用に供する特定資産）として積み立てられ、その名称、目的、要件等の取扱いは、平成 27 年度第 1 回理事会に諮ることとする。

VII. 委員会等の活動

下記の委員会および必要なワーキンググループを設置し、それぞれの目的に応じた活動を実施する。

- a. 編集委員会
- b. 学術集会委員会
- c. 財務特別委員会
- d. 国際交流委員会
- e. 広報・情報公開検討委員会
- f. 動物福祉・倫理委員会
- g. 定款・細則・規程等検討委員会
- h. 実験動物感染症対策委員会
- i. 教育研修委員会
- j. 実験動物管理者研修制度ワーキンググループ
- k. 国際的規制動向収集ワーキンググループ
- l. 将来検討ワーキンググループ
- m. 第三者評価検討ワーキンググループ

VIII. 関連学協会等との連携

- (1) 日本学術会議、生物科学学会連合及び動物実験関係者連絡協議会の活動に協力する。
- (2) 国内の関連学会・協会との学術・情報交換を進め、その活動に協力する。
- (3) 国際実験動物科学会議（ICLAS）及びアジア実験動物学会連合（AFLAS）における活動を継続する。
- (4) 米国実験動物学会（AALAS）など、海外関連学協会との学術・情報交流を推進する。
- (5) 公益財団法人実験動物中央研究所 ICLAS モニタリングセンターおよび日本動物実験代替法評価センターの活動に協力する。

IX. その他

- (1) 第 62 回日本実験動物学会総会期間中に委員会主催のシンポジウムおよびセミナーを開催する。（学術集会委員会、動物福祉・倫理委員会、実験動物感染症対策委員会、教育研修委員会）
- (2) 平成 27 年度維持会員懇談会を実施する。（財務特別委員会）
- (3) 第 4 回実験動物科学シンポジウムを開催する。（学術集会委員会）
- (4) 実験動物管理者研修会を実施する。（実験動物管理者研修制度ワーキンググループ）